

## 「CSM 2000」取得への動き強まる

繊維ファッション産業で、CSR（企業の社会的説明責任）を遂行する手段として大手アパレルや小売業が導入する取引先との取引行動規範（CoC）に加えて、メーカー・工場で導入する包括マネジメントシステム「CSM-2000」の承認を得ようとする動きが目立ってきた。「CSM-2000」の場合、導入から第三者機関による監査を経て認証を得るまで1年半ほどかかるが、「認証されることで、世界の小売業や有力ブランド先からトップクラスの事業所として認められる」（エコテック・ジャパン近藤繁樹代表取締役）ことから、対欧米輸出強化をにらんで大手アパレルも注目している。（「日本繊維新聞」）

### <コメント>

安全、品質などに関する認証は色々あるが、「CSM-2000」は一段と厳しい内容である。企業の社会的説明責任であるCSRはコンプライアンス（法令遵守）に基づいた企業の自主対応で、持続性ある企業の説明責任体制の確立を意味している。

その実行にはCoC（コード・オブ・コンダクト＝取引行動規範）、品質保証、安全・安心、信頼、企業内の保証体制の確立を重要な要件になっている。このSCRを導き出すためのツールが「CSM 2000」である。CoCの目的は商品の製造に従事する人々の環境や社会的条件を持続的に改善するための社会的責任基準を達成しさらに環境を保全し、持続的に改善するため環境基準を満たすことである。

サプライヤーはそれらに適合していることを小売業・バイヤーに保証し、その代わり市場での既得権を確保するが、このCoCを包含しているのが「CSM-2000」である。1992年、ドイツで繊維製品の社会的生態系適合性についての協議会を前提とする組織で制定した。

品質 環境 社会的責任 安全・衛生・健康 公正取引を含む経営システム管理の5分野にわたるマネジメントシステムの

基準に基づいて制定されたものである。わが国ではエコテックスジャパンが制定、指導や支援業務を行っている。実証、監査、検証は第三者機関である「TUV社」が行っている。

わが国では11事業所が取得、導入しており、4、5社が導入を検討しているが、今後輸出を進める企業やわが国に上陸する海外小売店との取引を行う企業にとっては、注視すべき動きである。

### （CSM-2000の取得状況）

「日本繊維新聞」より

ダイドー第1工場（上海）  
 グンゼ上海  
 三景三国工場  
 ダイドー分工場（上海・馬鞍山）  
 カコン上海  
 ダイドー第5工場（見込み）  
 三景上海  
 ダイドー第3工場  
 フレックスジャパンアモイ  
 ダイドー第4工場（上海）  
 エドウィン（秋田）（見込み）